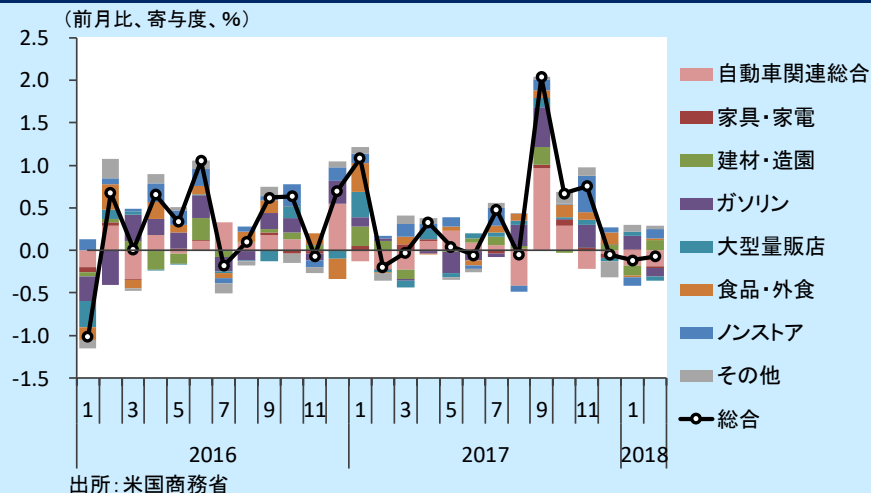


# 米国：小売売上高（2018年2月）

## —小売売上高は3ヶ月連続の減少—

*MRI Daily Economic Points*  
March 15, 2018

図表1 小売売上高 項目別 寄与度



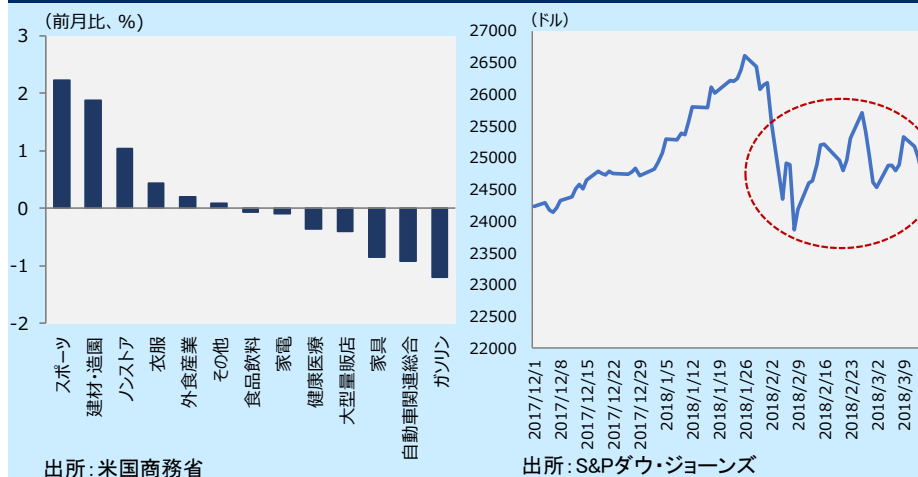
### 評価ポイント

#### 今回の結果

- 18年2月の米小売売上高(3/14日公表)は、前月比▲0.1%と3ヶ月連続で減少した。自動車やガソリン、建材、食品サービスを除いたコア売上高は同+0.1%と、小幅に増加した。
- 内訳をみると、主要13品目のうち6品目が前月から増加(図表2)。スポーツ(同+2.2%)が大幅に増加したほか、昨月に天候不順の影響で大幅に減少した建材・造園(同+1.9%)も、反動で大幅に増加した。
- 一方で、ガソリン価格の下落を受け、ガソリン(同▲1.2%)は減少。自動車関連総合(同+0.9%)も4ヶ月連続の減少となった。他にも、家具(同▲0.8%)や大型量販店(同▲0.4%)などが下落し、全体を押し下げた。

図表2 品目別売上高伸び率

図表3 17年12月以降のダウ平均株価



#### 基調判断と今後の流れ

- 消費の基調は、年明け以降、軟調な状態が続いている。背景には、昨年秋にかけて大幅に増加した消費の反動減があるとみられている。
- 先行きは、堅調さを取り戻すと見込む。依然として極めて良好な雇用環境が、消費を下支えするだろう。
- 下振れリスクとしては、①トランプ政権の保護主義的な動きが加速した場合には、輸入物価の上昇を通じて、消費が抑制され得る。食料品や衣料品といった消費財に高い関税が課せられた場合には、輸入品の消費が多い低所得者層を中心に、また、鉄鋼やアルミといった様々な産業で中間投入財として用いられている財に高い関税が課せられた場合には、幅広い所得層に悪影響を及ぼしかねない。
- さらに、②1月以降続いている米国株価の乱高下が長期化する場合には、マインドの悪化を通じて、消費の鈍化につながりかねない(図表3)。